

令和5年度学校評価書（実施段階）

自己評価				評価(総合)		学校関係者評価		
学校運営計画(4月)				評価(総合)		学校関係者評価		
学校運営方針		「豊かな心や健やかな体の育成」「基礎学力の定着」「キャリア教育の充実」を柱に総合学科の特徴を生かした教育内容とおして、生徒一人一人の夢の実現に向け必要となる確かな学力と豊かな人間性を育み、キャリア発達を促す学校教育を推進する。		評価(総合)		学校関係者評価		
昨年度の成果と課題		年度重点目標		具体的目標				
令和4年度は創立110周年を迎え、生徒職員が一丸となり、記念式典並びに周年関連行事は全て成功裏に終了した。生徒には本校の「歴史と伝統」の重みを感じとらせ、同時に未来に向け前進することを意識させることができた。令和5年度も福岡魁誠生としての「自信と誇り」を身に付ける指導を心掛ける。また、入試倍率が1.51倍となったことを踏まえ、更なる学校活性化を図るとともに、「選ばれる学校づくり」を推進すべく、具体的取組を工夫する。		豊かな心や健やかな体の育成		保護者とともに、時を守り、場を清め、礼を正す生徒を育てる。 自己有用感やコミュニケーション力を高め、他者を思いやり良好な人間関係が築ける生徒を育てる。		A	A	
		主体的・対話的で深い学びの実現		学力の確実な定着と学びに向かう力、人間性を伸長させる。 1人1台端末等のICT活用による授業改善及び「個別最適な学び」と「協働的な学び」を推進する。				
		キャリア教育を生かした進路保障		総合学科のキャリア教育を全教職員共通理解の下、実践する。 キャリア教育の充実による第一希望進路実現100%達成を目指す。				
		社会に開かれた教育課程の実現		全職員で本校の特長を共有し、その良さを地域に発信していく。 地域との連携を図り、総合的な探究の時間や卒業研究を充実させるとともに、地域や社会に貢献できる生徒を育てる。				
評価項目	具体的目標	具体的方策	評価(3月)	次年度の主な課題		項目ごとの評価	学校関係者評価委員会からの意見	
学事推進(学事部)	教務課	基礎学力の定着	出席率98.5%以上、出席皆勤者280名以上を目標とし、達成に向けて継続的に努める。 生徒の現状の学力に相応した授業を展開し、基礎学力の向上を図るとともに単位未修得者0を目指す。	B A	・次年度で観点別評価が全年次実施となるので、各課の活動内容の充実がより一層求められることとなる。そのために、授業改善と一致したより良い評価、ICTの更なる有効な活用、それにつながる教員に対する有益な研修を行う必要がある。 ・そのためには、まず学事部内でしっかりと連携して、総合学科としての本校のキャリア教育の特長が随所に生かされるよう、そしてその結果、生徒が自己肯定感を明確に持てるような取組を推進していく必要がある。	A	・落ち着いた教育活動が行われていると感じる。引き続き、生徒が自己肯定感を高められるような指導を願う。	
		キャリア教育の視点に立った教育活動の充実	入学から卒業までの学校教育活動全体を見通した効果的なキャリア教育を確立させる。 総合学科としての本校の特色ある教育活動を生かし、生徒の第一希望進路100%実現を目指す。	A A				
		情報図書課	ICT活用の推進	1人1台端末の活用方法や持ち帰り、保守管理に関することなど、本校の実態に合ったICT活用に関する運用方針を示していく。 ICT機器の貸出方法や返却に関する注意事項を明示し、定期的に点検をすることで保守管理を徹底する。				A B
			図書館貸出数の増加	各生徒の本への関心、図書館への関心を高めるために、電子掲示板を活用するなど、図書委員を中心に図書館情報を発信し、図書館来館のきっかけとなるような活動を行う。 図書館便りや新刊情報の定期的な発行、学級文庫の提供など、図書館の本について周知することで、図書館貸出数の前年比10%増を目指す。				A B
	研究研修課	「新たな学び」を目指した授業研究	教員と生徒の1人1台端末等のICT活用能力向上と「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指す。 Google Formsを使った授業アンケートを7月に実施し、結果を全教員で共有し早期に授業改善及びICT活用推進を目指す。	A A				
			校内研修の充実と研究授業実施及び参観の促進	本校の課題に対応する校内研修を年4回以上実施するとともに、校内で講師を務める教員の育成を図る。 授業公開週間で全職員の参観を推進するため、研究授業を5回以上組み込み、全教員の授業力向上を目指す。				A B
		保健課	情報の共有化と健康相談活動の充実	スクールカウンセラー事業の充実、学校医との連携、専門的な情報提供の場を設ける。 各年次特別支援教育コーディネーターと担任の連携を図り、ケース会議等生徒の情報を速やかに共有する場を積極的に設ける。				A B
	生徒育成(生徒部)	生徒指導課	社会人基礎力の育成	学校行事や式典等とおして、集団生活に求められる態度や言動を身に付けさせる。 清々しい挨拶やTPOに応じた身だしなみ等、主体的に考え行動する力を養う。				B B
			安全教育の充実及びモラル、マナーの向上	登下校中の自転車単独事故0件を目指し、登下校指導の強化や交通ルールに関する指導の充実を図る。 登下校中のモラル、マナーに関する指導を徹底し、場に応じた適切な行動選択ができる生徒を育む。				B B
		保健課	学校安全と学校環境の整備	緊急時の連絡体制の整備及び周知、最新情報の収集と感染予防の徹底・啓発を行う。 日々の清掃活動の充実とその中で学校設備の点検を定期的に行い、安全・安心に生活できる環境を整える。				A A B
進路探究(進路部)	進学指導課	進路実現に向けた主体性の向上	ガイダンスを年2回以上実施し、生徒に多様な進路を考えさせ、主体的な進路探究に繋げる。 課外授業や模試の充実から、生徒が学びに向かう態度を身に付け、進学後も持続できる学習態度と学力を育成する。	A A				
		個に応じた進路指導の充実	多様な受験方法を模索し、個に応じた進路指導を通して第一希望進路の実現を目指す。 教員一人一人が入試制度に関しての見識を広げるための学習会や研修等を通して、情報の充実を図る。	B B				
			就職指導課	職業観及び勤労観の育成	就職内定率100%を達成し、就職決定までの努力及び決定後の学校生活を疎かにしない態度を育成する。 1年次は基礎学力、部活動、礼節。2年次は幅広い職業理解。3年次は進路実現と卒業後の在り方生き方の指導を実践する。 高卒求人及び公務員試験の特徴を生徒・保護者に周知し、進路選択の幅を広げる。	B B B		
		キャリア教育課		キャリア教育の充実と社会人基礎力の育成	1年次は「産業社会と人間」を通して、社会人として必要な力や進路選択に必要な力を学ばせる。 2年次は「総合的な探究の時間」を通して、将来設計に必要な情報を主体的に収集できる力や社会人基礎力の育成の充実を図る。 3年次は「総合的な探究の時間」を通して、地域連携や地域貢献できる人材育成や社会との関りについて学ばせる。 キャリア・パスポートを基に年間2回以上個人面談を行い、生徒の進路実現や生きる力に結び付け指導を行う。	A A A B		

令和5年度学校評価書（実施段階）

福岡県立福岡魁誠高等学校

自己評価 学校運営計画（4月）			評価(総合)			学校関係者評価			
学校運営方針	「豊かな心や健やかな体の育成」「基礎学力の定着」「キャリア教育の充実」を柱に総合学科の特徴を生かした教育内容をとおり、生徒一人一人の夢の実現に向け必要となる確かな学力と豊かな人間性を育み、キャリア発達を促す学校教育を推進する。		A			A	自己評価は A : 適切である B : 概ね適切である C : やや適切である D : 不適切である		
昨年度の成果と課題	年度重点目標							具体的目標	
令和4年度は創立110周年を迎え、生徒職員が一丸となり、記念式典並びに周年関連行事は全て成功裏に終了した。生徒には本校の「歴史と伝統」の重みを感じとらせ、同時に未来に向け前進することを意識させることができた。令和5年度も福岡魁誠生としての「自信と誇り」を身に付ける指導を心掛ける。また、入試倍率が1.51倍となったことを踏まえ、更なる学校活性化を図るとともに、「選ばれる学校づくり」を推進すべく、具体的取組を工夫する。	豊かな心や健やかな体の育成	保護者とともに、時を守り、場を清め、礼を正す生徒を育てる。						自己有用感やコミュニケーション力を高め、他者を思いやり良好な人間関係が築ける生徒を育てる。	
	主体的・対話的で深い学びの実現	学力の確実な定着と学びに向かう力、人間性を伸長させる。						1人1台端末等のICT活用による授業改善及び「個別最適な学び」と「協働的な学び」を推進する。	
キャリア教育を生かした進路保障	総合学科のキャリア教育を全教職員共通理解の下、実践する。	キャリア教育の充実による第一希望進路実現100%達成を目指す。							
社会に開かれた教育課程の実現	全職員で本校の特長を共有し、その良さを地域に発信していく。	地域との連携を図り、総合的な探究の時間や卒業研究を充実させるとともに、地域や社会に貢献できる生徒を育てる。							
評価項目	具体的目標	具体的方策	評価(3月)	次年度の主な課題	項目ごとの評価	学校関係者評価委員会からの意見			
教育企画 (教育企画部)	庶務課	学校行事の円滑な実施	学校行事についてはコロナ禍で培った方策を生かしつつ以前の形に戻し、他の分掌と連携しながら円滑に実施する。	A	・次年度は、コロナ禍で培った方策を生かしながら部内の業務をさらに充実させたい。 ・業務分担や内容を精査し、期日の具体化を行うことで余裕をもった計画を立て、ミスを防ぐ体制を構築する。 ・PTA活動や同窓会との連携では、学校行事等の活性化を目指し行事への参加を促すことで連携を密にしたい。 ・広報活動では、スクールガイドを充実させるため、早期に取り組みスケジュール設定及びICT支援員の協力を得るなど、多面的な視点で学校の教育活動が十分に伝わる内容の作成に取り組む。 ・SNSの有効活用を目指し、各分掌等の複数人で計画的な更新を行いたい。 ・広報エリアを地元以外にも広げる。	A	コロナ禍で大変だったと思うが、教師、生徒ともに経験を生かしながら行事等を充実させてほしい。		
		職員室内のクリンリネス(整理・整頓・清掃)の呼び掛けを徹底し、働きやすい職場環境を目指す。	B						
		PTA及び同窓会活動の充実	コロナ禍で中止としていたPTA活動をもとに戻し、充実した内容とするため、関係分掌との連携を緊密にする。 同窓会との連携を密に行い、同窓会の活動をサポートし、生徒の学校生活に還元していく。	B					
	広報課	SNS等を活用した広報活動の充実	学校Webサイトの情報を整理し、学校ホームページの月5回以上の速やかな更新に努める。 生徒の課題研究と連携して、InstagramやYouTube等のSNSを活用した広報活動を実施する。	A					
		中学生、保護者、地域への積極的な情報発信	近隣の中学校や学習塾を中心に、計画的な広報活動を実施する。	A					
			各教科の広報担当者と連携して、体験入学や出前授業の内容を充実させる。	B					
年次 学級経営	1年次	社会人基準の基本的生活習慣の確立	時間の遵守や健康管理など、社会人として必要な生活のリズムを身に付ける。	A	教務・進路面は、教員の協力やフォロー体制がしっかりしており、綿密に議論して業務を進めることができた。新たな試みに対しても、フットワークが軽く、発展的な意見を交わす雰囲気があった。見通しをもった計画と意欲的な生徒の取組ができ、順調に成長を遂げている。生徒指導に関しては事前の周知、先を見据えた発達支持的生徒指導を行うことが今後の課題と考える。次年度に向け、教員同士の情報共有や共通認識をさらに深め、生徒の自主的な行動を啓発し、年次のスローガンである「勇気を持ち、確かな実行力を身に付けた成年を目指す」ことを加速させたい。	A	年次の生徒の特性を鑑みながら、適切かつ丁寧に指導されている。4月からも新入生を迎えられると思うので、よろしく願いしたい。		
		3年後を見据えた学力向上と熟考した科目選択	授業や定期考査の一つ一つの積み重ねを大切に、将来の目標を見据えた学力の向上と進路に対応した科目選択を行う。	B					
		ルールの遵守とマナーの定着	社会における「ルールとマナー」の重要性を理解させ、道徳心に溢れる人間性を身に付ける。	A					
	2年次	自己管理能力の育成	集会や授業で手帳を使用する場面を具体的に設定し、自主的な手帳活用にむけた声掛けを行う。	B					
		学校生活における主体性の涵養	年次目標を「ふみだす」とし、生徒がチャレンジできる場を設定する。年度末にチャレンジしたことの振り返りを行う。	A					
		豊かな心の育成	年次集会で生徒の成長をほめる場面を必ず1つ以上設ける。ホームルーム等で生徒が相互評価をする場面を設定する。	B					
	3年次	社会的常識の理解と行動選択力	挨拶・時間・ルール・マナー等の社会性の理解とともに、自己の行動を正しく選択していく力の確立を行う。	A					
		進路実現のための計画力・実行力	第一希望進路実現に向け、進路に合わせた学力の定着とともに、面接指導・小論文指導の徹底を行う。	B					
		誠実でひたむきな人間力の育成	教育活動を通して、リーダーシップ・協調性・創造性を育成し、誠実でひたむきな人格を形成する。	A					
学校事務	教育環境の整備のための適正な予算執行	予算を適切に配分執行して、学校教育を推進する環境づくりに努める。	A	厳しい予算状況であるが、効果的・効率的な執行に引き続き取り組み、学校教育の充実を努める。	A	A	直近の物価高を踏まえ大変だと思うが、引き続き適正な管理をお願いする。		
		効果的、効率的な学校経営を担う。	A						

自己評価及び学校関係者評価を踏まえた今後の改善策

I. 豊かな心や健やかな体の育成	①時を守り、場を清め、礼を正す生徒を保護者とともに育てる	②自己有用感やコミュニケーション力を高め、他者を思いやり良好な人間関係が築ける生徒を育てる
II. 主体的・対話的で深い学びの実現	①確実な学び直しを土台として学力を伸長させる	②「主体的・対話的で深い学び」の推進と観点別評価の充実を図る
III. キャリア教育を生かした進路保障	①総合学科としてのキャリア教育を全教職員が共通理解のもと実践する	②キャリア教育の充実による第一希望進路実現100%達成を目指す
IV. 社会に開かれた教育課程の実現	①全職員で本校の特長を共有し、その良さを地域に発信していく	②生徒が志を持ち、地域や社会に貢献できる力を養う

コロナ禍後の教育活動がより良い方策でさらに発展していけるようにPTAや同窓会の力を借りながら充実していくことを望む。